

今、この人に **いんたびゅう** Interview

一般社団法人甲賀市国際交流協会理事 中国語通訳・講師

曾田 玲さん

**地域での国際交流イベントを開催して、
相互理解を深めていきたい！**



▲「仕事で日本人と付き合いがあり、日本車にも興味があった父の影響で、子どもの頃から日本に興味があったので、日本とは不思議なご縁があったように思います」

● プロフィール ●

曾田 玲さん／

(一社)甲賀市国際交流協会理事
(2018年～)、中国語通訳・講師

日本語を学ぶために来日後、立命館大学経済学部へ進学。大学院在学中に、甲賀市浄福寺の住職である夫と結婚。甲賀市国際交流フェスタに参加したことをきっかけに甲賀市国際交流協会に入会。その後、甲賀市の国際化推進懇話会委員、国際化推進委員、多文化共生推進委員を歴任。甲賀市多文化共生推進計画の策定にも携わる。中国語講座の講師や小学校での異文化交流授業の実施、地域のイベント開催等を通して、地域住民に中国の文化を伝えている。



▲2018年に甲賀市で開催された国際交流フェスタでチャイナドレスファッションショーを企画し、中国の文化を地域に紹介。

らの協力を頂いたことこそ「地の利」でした。そして、人の心のつながりと団結を指す「人の和」は、私を支えてくださった方々で、まさに一番大事なものはこの「人の和」だと思っています。

■今後、地域の中でどのような活動に取り組みでいきたいですか？夢や目標を教えてください。

一つは、中国から来た子どもの母語支援です。母語と日本の言葉と文化をしっかり身につけ、両国の発展のために貢献できる人材に育てていくことが大事だと思います。もう一つは、外国人理解を深めるイベントを学区ごとにやっていくことです。各学区の文化祭で世界各国の文化を紹介して、多文化共生を推進していきたいですね。さらに、外国人に向けた防災情報の発信にも取り組んでいきたいと思っています。

■来日したのは日本語を学ぶためだったそうですが、日本を選んだきっかけは何だったのですか？

高校生のとき、旅行会社の添乗員になりたかったのですが、父に反対されました。その頃から外国語に興味がありましたが、その前に母国語をしっかり勉強したいと、夜間大学で中国文学を勉強しながら、カメラ専門店で働いていました。そのとき日本製のカメラの説明書を見て、漢字が同じだし他の外国語より学びやすそうだと思う、日本語を勉強することに決め日本に留学しました。

■その後、立命館大学経済学部へ進学されました。なぜ経済学部を選ばれたのですか？

京都の日本語学校で1年間勉強して、日本語が話せるようになったら中国に帰るつもりでした。でも実際には1年勉強しても話せるようにならず、もっと日本語を勉強したくて大学進学を決意しました。そのとき先生に相談すると、経済を勉強しておけばどんな分野にもつながるから、という理由で経済学部への進学を薦められ、京都から近い草津市にある立命館大学経済学部を進学先を選びました。

■京都から滋賀へ来られて、どんな印象を持たれましたか？

とても気に入りました。空がアニメで描かれたみたいに綺麗で、空気も美味しい。スーパーがたくさんあり買い物も便利です。それに今住んでいる甲賀市は、まちの雰囲気が私の故郷ととてもよく似ています。地域のつながりが強く、そのおかげで異文化を紹介するイベントを実現することができました。最近通訳の仕事で、信楽焼の人間国宝の方のお仕事ぶりを拝見する機会がありましたが、本当に素晴らしい、滋賀の宝だと思いました。

■夫の俊弘さんはお寺の住職ですが、お寺の仕事や子育てなど、不安なことはありませんでしたか？

夫婦でお寺の仕事と子育てをしながら、私は市内の小中学校での母語支援員や中国語講座の講師、通訳・翻訳などの仕事をしてきました。最初は、日本での生活、しかもお寺という特殊な環境に戸惑い、イライラしたこともありましたが、

でも私が恵まれていたのは、お檀家が皆親切で、特に住職のお世話をしてくださる「親取」という役目の方が親身に相談に乗ってくくださったことです。面倒見がよく、いざ問題が起こったら解決するよう努力してくださる。人格的にも素晴らしく、お寺の行事とイベントが重なった時など、その方がお檀家の対応をしてくださりとても助かっています。夫は「フードバンクびわ湖」を立ち上げ、経済的に苦しい人に食料を届ける活動で県内各地を走り回っていますが、それも親取さん達の支えがあってこそできることだと思っています。

■そのような中で甲賀市国際交流協会の会員になられて、2018年からは理事として活躍されています。協会での活動を始めたきっかけは、何だったのですか？

お寺のお檀家の中に、市の国際交流協会の立ち上げに関われた人がおられるのですが、2002年に甲賀市(旧水口町)に来た頃に、国際交流フェスタをぜひ見に来てほしいと誘われたのがきっかけでした。当時はまだ甲賀市には国際交流協会がなかったのですが、その後2005年に協会が設立されたときに、この地域で外国の文化を紹介する活動に取り組みたいと思って参加し、それ以来ずっと関わっています。

■地域の中で、国際交流イベントをされてきたそうですが、地域の方の受け入れや反応はどうでしたか？

私が甲賀市に来た頃、民生委員の方が、外国人が地域に溶け込めるように、声かけをしたり地域のイベントを紹介したりするなど、とても力を尽くされていました。私もその人の助けがあって、市内のいろんな地域でイベントをすることができました。ただ、2020年からのコロナ禍でイベントができなくなり、つなぎ役だったその民生委員さんが亡くなられてからは、他の地域でイベントをすることができなくなりました。それが残念ですね。

孟子の言葉に「天の時、地の利、人の和」というものがあり、「天の時」は有利な季節と気候を指すのですが、私にとっては地域交流ができるチャンスが「天の時」でした。「地の利」は有利な土地の条件のことで、国際交流協会と自治振興会か